

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童デイサービスわかば		公表日		令和7年 3月 24日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		スケジュールを組む際に、一つの部屋に人数が集中しないようにし、活動しやすいように配慮している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6			パニック等、平常と違う状態の時に職員がとられることがあるため、どのような体制をとるか決めておく必要がある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		情報伝達は、児童に合わせて行っている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎日掃除と消毒を行っており、汚れたらその都度掃除をしている。加湿器、空気清浄機を設置している。 プレイルーム・課題の部屋等定め、落ち着いて活動できるようにしている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	個室がないため、必要に応じてパーティションで仕切り落ち着いて過ごせる空間を作っている。意思表示しやすいように誰でも使用できる絵カードを設置している。	一人で過ごしたい時、クールダウンしたい時の個室がない。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		朝のミーティング時に行うようにしている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		朝のミーティング時に意見を伝える機会がある。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3	外部評価は行っていないが、見学の求めがあれば随時受け付けている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		2ヶ月に1回内部研修がある。 外部研修の情報を伝え、希望があれば受講している。	自ら受講したい研修を希望してくることが無い。 受講後のアウトプットの必要がある。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		子ども自身が発した、〇〇したい、〇〇できるようになりたいを大事にしている。	子ども自身のニーズの聞き取りが足りていないため、今後力を入れていきたい。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6				フォーマルアセスメントを活用できていない。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		他の職員に相談しながら行っている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	1	スケジュール考案の職員を固定せず、全員で交代で考案している。他の職員の意見を聞いたり、ネット等で情報を得るようにしている。	スケジュールを組み立てる際に、同じ課題が続くことがあるため、事前に把握して作成する必要がある。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		集団活動は、その活動によって、異年齢で行ったり同年代で行ったりしている。 月に2回、外部講師による音楽創作活動を取り入れている。		

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎朝のミーティングの中で行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		早急に打ち合わせが必要な場合はその日のうちに行うようになっているが、そうでない場合は翌日の朝のミーティングで共有している。 1日利用の際は申し送りで確認している。	長期休みに時間がとれないため、他事業所でのようになっているか確認する必要がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		職員全員、様々な場面の記録を残しているため、管理者は記録を確認して、ミーティングで話題に出なく、気になる部分は確認して支援の改善に努めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせで支援を行っているか。	6			地域交流に関して足りていないため、情報を得て出かけるようにしたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		様々な場面で選択する機会を設けるようになっている。 外食の際は予めメニューを決めてもらっているが、自分で決めてもらうようになっている。	外での場面で、その場で決めることも多くしていきたい。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	3		学校との連携は取るようになっているが、その他の機関とは連携がとれていない。必要に応じて連携できるようにしていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	1	送迎時や保護者を通して行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		必要に応じて行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	2	必要に応じて行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	4		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		6		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		6		あれば参加したい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	1	連絡帳、送迎時、お迎え時等に伝えるようになっている。	共通理解という面に対しては全員ではないと思うため、ニーズの把握を密に行ってきたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	ご家族から相談があった際にどのように対応しているか等伝達している。 ご家族が参加できる外部研修について掲示している。	コロナ禍からそのような機会がなくなってしまったため、再開していきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		利用者負担に関しては、法改正で変更があった場合にお知らせしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		相談があった際には、いつでも受けるようにし、助言支援を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6		ニーズを把握し、どのような形態で行えば良いのか考えていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		体制を整えており、玄関に掲示している。	

非常時等の対応	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		月に1回『わかばだより』を発行している。また、カレンダーを使用して、子どもたちにわかるように、行事や制作、クッキングの日程を顔写真や文字で掲載している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		十分注意している。また、日頃使用しているスケジュール等、顔写真・氏名が載っているものはシュレッダー処理している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		児童に合わせて行っている。	まだまだ足りないので、職員の支援力向上が必要。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3		
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	2		マニュアルは策定しているが、ご家族への周知不足。フローチャート等、分かりやすいもので、どのような体制を整えているかお知らせしていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		定期的な避難訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	1	服薬やてんかん発作等、保護者がお知らせしてくれているので、職員間で共有している。てんかんのある児童は、発作時にどのようにしたらよいか保護者から確認している。	全てしっかり把握していないこともある為、定期的に確認する時間を設ける。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	2		医師の指示書が必要な程度の食物アレルギーの児童はいないが、今後必要があれば指示書の通り対応する。
50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			防犯に対しての研修や訓練が足りない為、検討していく。	
51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		年度初めに緊急連絡先、災害時お迎え者名簿の確認をし、一覧を更新している。避難訓練の際に事前学習をしているが、家庭に持ち帰り、ご家族へも周知している。	安全計画に関する事全てを周知していない為、改善が必要。	
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハット事例が発生した場合、共有し、再発防止の検討を皆で行っている。		
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		年2回内部研修を行っている。	自分や他職員の支援について話し合える関係性ではないと思う。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6				